

博士論文（要約）

普遍的国際機構としての国際連盟——普遍・地域関係の構
築

帶谷 俊輔

目次

序章	1
第1章 国際連盟理事会拡大改革における「普遍」と「地域」・・・・・・・・・・	13
はじめに	13
一 国際連盟創設から一度目の理事会拡大まで	13
二 常任理事国増員問題の浮上	17
三 1926年3月理事会の紛糾	21
四 「連盟理事会構成問題委員会」と非常任理事国増員問題	22
おわりに	27
第2章 「中国問題」と国際連盟——未発の紛争調停・ガヴァナンス構想と代表権問題……	32
はじめに	32
一 北京政府期の国際連盟関与構想	33
1 山東半島返還問題と国際連盟	33
2 北京政府の統治能力衰退による連盟関与構想の浮上	36
3 国際宣伝の場としての連盟総会	38
二 中国内戦と代表権問題の浮上	40
1 中国の混乱とワシントン協調の瓦解	40
2 上海「防衛」軍派遣と国際連盟における中国代表権問題	44
3 中国内戦に対する国際連盟関与構想の浮上	49
三 南京国民政府による統一と代表権問題の解消	52
1 済南事件と国民政府の国際連盟提訴	52
2 国際連盟の中国技術協力始動	58
3 国際連盟非加盟国の紛争としての中ソ紛争	61
4 満洲事変	64
おわりに	65
第3章 アジア太平洋地域の条約秩序と国際連盟——国際連盟と多国間枠組みの競合と包 摂・・・・・・・・・・	78
はじめに	78
一 「ワシントン体制」と国際連盟	79
1 日英同盟から四カ国条約へ	79

2 「ワシントン体制」	84
二 不戦条約の締結と国際連盟	87
1 不戦条約締結	87
2 不戦条約による紛争調停構想と国際連盟	89
三 満洲事変における国際連盟と九カ国条約・不戦条約	94
1 初動対応における管轄権の競合	94
2 国際連盟の動揺と管轄権競合の再発——スティムソン・ドクトリン、九カ国条約委員会	99
おわりに	105

第4章 ラテンアメリカと国際連盟——チャコ紛争における国際連盟と地域的枠組みの競合・・・・・・・・・・115

はじめに	115
一 1920年代のラテンアメリカと国際連盟	116
二 1928年12月の武力衝突	120
三 チャコ戦争の開戦	124
四 「管轄権」の国際連盟への移動とチャコ委員会	127
五 規約15条の適用と1934年11月特別総会	132
六 ブエノスアイレス交渉へ	135
おわりに	140

第5章 国際連盟と地域機構の関係設定の試み・・・・・・・・・・・・・・・・・・148

はじめに	148
一 国際連盟創設直後の連盟事務局における連盟—地域機構関係の検討	149
二 1920年代の地域統合構想の進展と政府レベルにおける連盟—地域機構関係の検討	152
三 1930年代の国際連盟——パン・アメリカ会議及び連合の並列的關係公式化の試みと挫折	157
四 国際連盟改革論における連盟—地域機構関係	161
おわりに	166

終章 176

参考史料・文献

要約

本論文は、普遍的国際機構としての国際連盟の性格を検討するものである。先行研究において連盟はヨーロッパ偏重の機構だったとされる一方で、1930年前後には満洲事変、チャコ紛争（パラグアイ＝ボリビア紛争）、レティシア紛争（コロンビア＝ペルー紛争）の調停や対中国技術協力など、東アジアやラテンアメリカにまで活動を拡大させるに至っていたことの意味は明らかにされていない。1920年代における連盟のヨーロッパ偏重性に対する批判を考えると、この転換の意味は極めて大きい。そこで本論文はまず、連盟が1920年代の非ヨーロッパ地域への不介入から一転して紛争調停や技術協力などの形式で関与するに至るまでの力学を分析している。

さらに、それまで関与しなかった地域に連盟が活動を拡大させると、その地域に存在する地域秩序や地域機構との関係設定が課題として浮上する。東アジアを含むアジア太平洋であればいわゆる「ワシントン体制」という言葉で表現される四カ国条約や九カ国条約が構成する秩序が、ラテンアメリカを含む米州ではより組織化・機構化されたパン・アメリカ会議やパン・アメリカ連合が存在していた。後者は当然のこと、前者についても条約会議や条約委員会が設置されるならば、連盟との間で組織間・機構間関係が発生する。これは現代の国際連合と地域機構の関係の原型とも言えるものであった。そこで本論文の二つ目の目的として、それまで関与しなかった地域に存在する地域秩序や地域機構と連盟がどのような関係を取り結んだのかを明らかにしている。

本論文では歴史学的手法、そのなかでもマルチ・アーカイヴァル・アプローチを取っている。国際連盟の政治史的研究においては多様なアクターを検討しなければならないためである。大国－小国、ヨーロッパ－非ヨーロッパという対立軸に合わせ、ヨーロッパの大国であるイギリス、非ヨーロッパの大国である日本、非ヨーロッパの中小国（当時動員できる国力という意味において）である中国、そして加盟国間の調整に当たりつつ一定程度の影響力を持つ連盟事務局を主要な検討の対象としている。

本論文は序章と終章のほか、5章から構成される。

第1章「国際連盟理事会拡大改革における「普遍」と「地域」」では、国際連盟理事会拡大改革が普遍的国際機構としての連盟の成長と連盟における地域集団の形成の双方に及ぼした影響を明らかにした。創設当初から連盟の大国偏重、ヨーロッパ偏重は激しい批判の対象となっており、中小国のサボタージュを招かないためにも対策の必要があった。そこで取られたのが非常任理事国の増員であり、当初の4カ国が1922年には6カ国に、そして1926年には9カ国まで拡大された。さらにはラテンアメリカ諸国や中国の要求によって、非常任理事国の地域配分が事実上慣習化される。それにより1926年の拡大以後は、ラテンアメリカからほぼ常時3カ国以上、アジアからもトルコを含めれば常時1カ国が選任された。特にラテンアメリカの非常任理事国は、第4章で言及するようにチャコ紛

争で度々連盟の介入を後押しする要因となった。また、満洲事変においても連盟がすぐに介入することになったのは、中国が非常任理事国であった事実と切り離せない。一方で地域配分制の定着化は、非常任理事国の選出をめぐって地域内部で交渉を繰り返すことで地域意識をより強固にした。そして地域内部における配分は次第に外部の大国の思惑で左右するのは不可能なものとなり、自立性を高めていく。国際連盟理事会拡大改革は「地域」を基礎に連盟の普遍性を強化したが、同時に活発化した前者との関係性設定という課題が残された。

第2章「中国問題」と国際連盟——未発の紛争調停・ガヴァナンス構想と代表権問題」は、連盟が1920年代に扱わなかった「中国問題」になぜ1930年前後から対中技術協力や満洲事変の調停という形式で関与するに至ったのかを明らかにした。当初「中国問題」は連盟で扱われる前提であったが、イギリスと中国のディスコミュニケーションなどで機会を失っていたところ、1920年代半ば頃から情勢が激変する。国民政府が支配領域を拡大する過程で列強の権益を脅かす一方、連盟で代表されているのは依然として北京政府であった。こうした連盟における代表権問題の存在により、イギリスの上海出兵問題や済南事件は連盟の審議の対象とはならなかった。連盟において適用される一国一代表制は中国の現実と齟齬していたのである。しかしながら国民政府が中国を統一して連盟における代表権も獲得すると状況は一変する。国民政府の実質的な支配能力の低さなど近代的統一国家としての不十分さはむしろ連盟の技術協力によって解消されるべき問題となった。代表権問題が解消された後に起こった満洲事変では中国国民政府の提訴を受け入れない理由は存在しなかったのである。

第3章「アジア太平洋地域の条約秩序と国際連盟——国際連盟と多国間枠組みの競合と包摂」では、アジア太平洋の条約秩序や不戦条約の制度化・組織化への動きと連盟の関係を検討した。ワシントン会議で締結された四カ国条約には会議条項が存在し、九カ国条約についても協議条項を根拠に条約会議・委員会を開催しようとする動きがあった。また不戦条約についても条約会議・委員会を設置して紛争調停にあたらせる構想が存在した。これらの会議・委員会については連盟との関係が定められておらず、アメリカを含む枠組みであるだけにむしろ連盟に取って代わるのではないかという懸念もあった。中ソ紛争においては不戦条約による調停委員会構想、そして満洲事変においては九カ国条約委員会・会議や不戦条約会議・委員会構想が連盟と競合する調停機構として、もしくは連盟を窮地から救い出す時間稼ぎの手段として開催が検討されていた。しかしながらイギリスの連盟尊重の配慮や責任を引き受けたくないアメリカの消極姿勢によって実現には至らなかった。九カ国条約や不戦条約に基づく警告なども連盟に統一され、連盟と管轄権争いを起こしかねない組織や機構はアジア太平洋地域には誕生しなかった。一方で、その包括性は日本が連盟のみならず九カ国条約や不戦条約など他の多国間枠組みをも一纏めに否定していく要因になった。

第4章「ラテンアメリカと国際連盟——チャコ紛争における国際連盟と地域的枠組みの

競合」では、まず当初ラテンアメリカには関与しなかった連盟がチャコ紛争に介入するに至る経緯を明らかにした。そしていったん介入した後は地域的枠組み、地域機構とどのような関係を取り結んだのか検討した。モンロー主義に言及した連盟規約第 21 条、そして非加盟国アメリカの存在が連盟のラテンアメリカに対する関与を阻害していたが、1928 年のコスタリカの連盟規約第 21 条解釈の問い合わせに対する返答によって連盟側の躊躇に規約上の根拠はないことが明らかになった。その直後に勃発したチャコ紛争では理事会拡大改革によって増員されたラテンアメリカの非常任理事国がこの回答を根拠に介入を求めたことが連盟による決議の後押しとなった。このとき連盟は米州の地域的枠組みを尊重していたが、一旦停止された紛争が 1932 年に再発して以降、連盟と米州の枠組みどちらが主導権を持つかが競合が繰り返されることになる。米州側の「中立諸国委員会」が調停に行き詰まると、チャコ委員会の派遣など連盟側が管轄権を握った。連盟の措置を実効化するためには米州・ラテンアメリカ側の協力が不可欠であり、連盟はパン・アメリカ会議などとの協調を図っていく。チャコ委員会の失敗、パラグアイの脱退などの事態が相次ぎ、連盟は再び地域的枠組みに主導権を委ねるが、満洲事変の結末と比較すればそれはラテンアメリカにおける多国間枠組みの多元性、多層性の利点でもあった。

第 5 章「国際連盟と地域機構の関係設定の試み」では連盟と地域機構の関係設定の試みを連盟の創設から事実上の終焉に至るまで跡付けている。当初政府レベルで関心が薄かったために、連盟事務局員たちがその内部では連盟の優位を当為としつつも並列的な実務協力関係を構築していく。1930 年前後、ブリアンのヨーロッパ連合案を契機に政府レベルでも議論が行われるようになったが、既に連盟の権威がある程度確立していたヨーロッパでは地域機構に対する連盟の優位が定義された。ただし、そこでは既に展開されているパン・アメリカ連合及び会議と連盟の関係と整合性は付けられなかった。1930 年代に至り、地域主義の高まりは並列的な実務協力関係の公式化や連盟自体の地域分割という選択肢を有力化した。しかしながら、1930 年代後半の連盟改革の動きにおいてもパン・アメリカ連合や会議との実務関係は置き去りにされたまま連盟の優位が再確認されるに止まった。実態と当為の距離はますます拡大したのである。

本論文は国際連盟の普遍性が 1930 年前後に一定程度達成される過程を明らかにしたが、それは 1930 年代の危機によって完全に後退したわけではない。そのことは日中戦争における日本の非難決議や中国に対する医療援助、そして 1930 年代後半のラテンアメリカにおける活発な技術的事業によって明らかであろう。連盟における達成は普遍的国際機構としての国際連合の基盤となった。

一方で、連盟期を通じて存在した連盟と地域機構の関係における当為と実態の乖離もまた国連に引き継がれた。普遍的国際機構たる国連による地域機構の一元的統制が国連憲章に盛り込まれたがそれは現実化せず、現在も国連と地域機構の並列的な協力及び分業がアド・ホックに手探りで構築されている。このように本論文では連盟期と現在の課題の共通性を最後に示唆した。

参考史料・文献

未公刊史料

日本

外務省外交史料館

外務省記録

調書

国立国会図書館憲政資料室

安達峰一郎関係文書

外務省文書：MF

阪谷芳郎関係文書

重光葵関係文書

牧野伸顕関係文書

東京大学社会科学研究所

山川端夫関係文書（MF:個人蔵）

東京大学アメリカ太平洋地域研究センター

高木八尺文庫

イギリス

The National Archives, Kew

CAB 23: Interwar Conclusions

CAB 24: Interwar Memoranda

FO 371: General Correspondence

FO 800/256-263: Papers of Austen Chamberlain

FO 800/280-284: Papers of Arthur Henderson

FO 800/296: Papers of Viscount Cranborne

Bank of England Archive, London

Committee of Treasury Minutes

British Library, London

Balfour Papers

Cecil of Chelwood Papers

School of Oriental and African Studies Archives, University of London, London

Papers of Charles Addis

Bodleian Library, University of Oxford, Oxford

Papers of Gilbert Murray

Middle East Centre Archive, St. Antony's College, University of Oxford, Oxford

Sir Miles Lampson, 1st Baron Killearn Collection

Churchill Archives Centre, Churchill College, University of Cambridge, Cambridge

Papers of Alexander Cadogan

Papers of Winston Churchill

Papers of Maurice Hankey

Papers of Philip Noel-Baker

Papers of Arthur Salter

Papers of Robert Vansittart

アメリカ

National Archives II, College Park, Maryland

RG 59: General Records of the Department of State (マイクロフィルム版)

Manuscripts and Archives, Yale University Library, New Haven

Henry Lewis Stimson Papers (マイクロフィルム版)

Henry Lewis Stimson Diaries (マイクロフィルム版)

スイス

League of Nations Archives, Geneva

Papers of the League of Nations Secretariat

Liste du personnel au secretariat [1920-1938]

Personnel Files

Private Papers

P16: Avenol Papers

P81: Drummond Papers

Sean Lester Papers

Sean Lester Diaries

台湾

中央研究院近代史研究所档案館、台北

北洋政府外交部档案

外交部档案

建設委員会档案

国史館、台北

国民政府档案

外交部档案

蔣中正總統文物

中国国民党文化伝播委員会党史館、台北

漢口档案

公刊史料

『日本外交文書』。

安達峰一郎博士顕彰会編『国際法にもとづく平和と正義を求めた安達峰一郎——書簡を中心にして』（安達峰一郎博士顕彰会編、2011年）。

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史』（名古屋大学出版会、2008年）。

小川平吉文書研究会編『小川平吉関係文書』（みすず書房、1973年）。

国際連盟協会編『完全復刻 リットン報告書——日支紛争に関する国際連盟調査委員会の報告（英文並に邦訳）』（角川書店、2006年）。

渋沢青淵記念財団竜門社編『渋沢栄一伝記資料』。

高橋勝浩編「「出淵勝次日記」(二)——大正12年—15年」(『国学院大学日本文化研究所紀要』第85輯、2000年)。

高橋勝浩編「「出淵勝次日記」(三)——昭和6年—8年」(『国学院大学日本文化研究所紀要』第86輯、2000年)。

鳥取県立公文書館編『澤田廉三と美喜の時代』（鳥取県、2010年）。

新渡戸稲造全集編集委員会編『新渡戸稲造全集』（教文館、1969—2001年）。

福永文夫、下河辺元春編『芦田均日記 1905-1945』（柏書房、2012年）。

山岡道男編『太平洋問題調査会関係資料——太平洋会議参加者名簿とデータ・ペーパー一覧』（早稲田大学アジア太平洋研究センター、2010年）。

吉田茂記念事業財団編『吉田茂書翰』（中央公論社、1994年）。

Documents on British Foreign Policy 1919-1939.

British Documents on Foreign Affairs: Reports and Papers from the Foreign Office Confidential Print

Foreign Relations of the United States.

League of Nations Official Journal.

Chamberlain, Austen, *Peace in Our Time: Addresses on Europe and the Empire*, Philip Alan, 1928.

Doenecke, Justus ed., *The Diplomacy of Frustration: The Manchurian Crisis of 1931-1933 as revealed in the Papers of Stanley K. Hornbeck*, Hoover Institution Press, 1981.

Hooker, Nancy Harvison ed., *The Moffat Papers: Selections from the Diplomatic Journals of Jay Pierrepont Moffat*, Harvard University Press, 1956.

Link, Arthur S. ed., *The Papers of Woodrow Wilson*, Vol. 51, Princeton University Press, 1988.

Miller, David Hunter, *The Drafting of the Covenant*, William S. Hein, 2002 [G. P. Putnam's Sons, 1928].

Myers, William Starr, ed., *The State Papers and Other Public Writings of Herbert Hoover*, Doubleday, Doran & Company, 1934.

Nicolson, Nigel, ed., *The Harold Nicolson Diaries, 1907-1964*, Phoenix, 2005 [Paperback Edition, First Published in 2004].

Self, Robert C. ed., *The Austen Chamberlain Diary Letters: The Correspondence of Sir Austen Chamberlain with His Sisters Hilda and Ida, 1916-1937*, Cambridge University Press, 1995.

“Hansard 1803-2005.” <http://hansard.millbanksystems.com/>

“Digitized Collections: League of Nations Official Documents.”

<http://libraryresources.unog.ch/c.php?g=462663&p=3163194>

沈雲龍編『外交公報』（文海出版社、1987年）。

鳳岡及門弟子編『民国梁燕孫先生士詒年譜』（台湾商務印書館、1978年）。

北京師範大学、上海市档案馆編『蒋作賓日記』（江蘇古籍出版社、1990年）。

沈雲龍編『黄膺白先生年譜長編』上卷（連經出版事業公司、1976年）。

上海市档案馆編『顏惠慶日記』（中国档案出版社、1996年）。

王正華他編『蒋中正總統档案：事略稿本』（国史館、2003年～）。

葉惠芬編『中華民國与聯合國史料彙編 籌設篇』（国史館、2001年）。

張力編『金問泗日記 1931-1952』上卷（中央研究院近代史研究所、2016年）。

中国国民党中央委员会党史史料編纂委员会編『革命文献』（中央文物供应社、1958年～）。

中国第二歷史档案馆編『北洋政府档案』（中国档案出版社、2010年）。

中華民國重要史料初編編輯委员会編『中華民國重要史料初編——对日抗戰時期 緒編（一）』（中国国民党中央委员会党史委员会、1981年）。

中央研究院近代史研究所編『中日關係史料 山東問題』（中央研究院近代史研究所、1987年）。

「中華民國政府官職資料庫」。[\[http://gpost.ssic.nccu.edu.tw/\]](http://gpost.ssic.nccu.edu.tw/)

雑誌・新聞類

『大阪毎日新聞』
『外交時報』
『国際知識』
『帝国大学新聞』 [復刻版、不二出版]

The American Political Science Review
Foreign Affairs
Japan Times & Mail
New York Times
The Times [London]
Proceedings of the Academy of Political Science

『時報』 (上海)
『晨報』 (影印版、人民出版社、1981年)

文献

アントニー・ベスト「戦間期東アジアにおける国際連盟——国際協調主義・地域主義・ナショナリズム」
(緒方貞子、半澤朝彦『グローバル・ガバナンスの歴史の変容——国連と国際政治史』ミネルヴァ書房、2007年)。

アントニー・ベスト (武田知己訳)『大英帝国の親日派——なぜ開戦は避けられなかったのか』(中公叢書、2015年)。

伊香俊哉『近代日本と戦争違法化体制——第一次世界大戦から日中戦争へ』(吉川弘文館、2002年)。

石井菊次郎『外交余録』(岩波書店、1930年)。

石川禎浩『シリーズ中国近現代史 3 革命とナショナリズム』(岩波新書、2010年)。

石田憲『地中海新ローマ帝国への道——ファシスト・イタリアの対外政策 1935-39』(東京大学出版会、1994年)。

石田憲『日独伊三国同盟の起源』(講談社メチエ、2013年)。

井上寿一『危機のなかの協調外交——日中戦争に至る対外戦争の形成と展開』(山川出版社、1994年)。

入江昭『極東新秩序の模索』(原書房、1968年)。[Iriye, Akira, *After Imperialism: The Search for a New Order in the Far East, 1921-1931*, Harvard University Press, 1965].

入江啓四郎「国連の中華人民政府容認問題」(『アジア研究』第1巻第1号、1954年)。

植田隆子『地域的安全保障の史的研究——国際連盟時代における地域的安全保障制度の発達』(山川出版社、1989年)。

白井勝美『満州事変——戦争と外交と』(中公新書、1974年)。

- 白井勝美「済南事件交渉経緯」（『外交史料館報』第3号、1990年）。
- 白井勝美「1929年中ソ紛争と日本の対応」（『外交史料館報』第7号、1994年）。
- 白井勝美『満洲国と国際連盟』（吉川弘文館、1995年）。
- 白井勝美『日中外交史研究——昭和初期』（吉川弘文館、1998年）。
- 白杵英一「PKOの起源——国際連盟レティシア委員会（1933-1934年）」（『軍事史学』第42巻3・4合併号、2007年）。
- 浦野起央ほか『国際関係における地域主義——政治の論理・経済の論理』（有信堂高文社、1982年）。
- 海野芳郎『国際連盟と日本』（原書房、1972年）。
- 遠藤乾「ヨーロッパ統合にむけて——起点としての第一次世界大戦」（『現代の起点 第一次世界大戦4遺産』岩波書店、2014年）。
- 大井孝『欧州の国際関係 1919-1946——フランス外交の視覚から』（たちばな出版、2008年）。
- 大畑篤四郎「第三次日英同盟更新問題——ワシントン会議開催提議に関連して」（『早稲田法学』第35巻第1・2号、1959年）。
- 大畑篤四郎「不戦条約と日本——田中外交の一側面」（『国際政治』28号、1965年）。
- 緒方貞子『満州事変——政策の形成過程』（岩波現代文庫、2011年）[原題『満州事変と政策の形成過程』原書房、1966年]。
- 岡本隆司『近代中国と海関』（名古屋大学出版会、1999年）。
- E・H・カー（大窪愿二訳）『新版 ナショナリズムの発展』（みすず書房、2006年）。[Carr, E. H., *Nationalism and after*, Macmillan, 1945].
- E・H・カー（原彬久訳）『危機の二十年——理想と現実』（岩波文庫、2011年）。[Carr, E. H., *The Twenty Years' Crisis 1919-1939: An Introduction to the Study of International Relations*, 2nd edition, Macmillan, 1946 (1st ed., 1939)].
- L・ガードナー（河合秀和訳）「極東国際政治と英米関係」（細谷千博・斎藤真編『ワシントン体制と日米関係』東京大学出版会、1978年）。
- 加藤俊作『国際連合成立史——国連はどのようにしてつくられたか』（有信堂、2000年）。
- 加藤陽子『シリーズ日本近現代史 5 満州事変から日中戦争へ』（岩波新書、2007年）。
- 神川彦松「不戦条約の価値批判」（『外交時報』第572号、1928年10月）。
- 神山晃令「史料紹介 昭和3年10月11日付吉田茂宛佐藤尚武意見書」（『外交史料館報』第25号、2012年）。
- 河合秀和「北伐へのイギリスの対応——『クリスマス・メッセージ』を中心として」（細谷千博・斎藤真編『ワシントン体制と日米関係』東京大学出版会、1978年）。
- 川島真『中国近代外交の形成』（名古屋大学出版会、2004年）。
- 川島真「中国外交における象徴としての国際的地位」（『国際政治』第145号、2006年）。
- 川島真「中華民国の国際連盟外交——「非常任理事国」層から見た連盟論」（緒方貞子、半澤朝彦編『グローバル・ガヴァナンスの歴史の変容——国連と国際政治史』ミネルヴァ書房、2007年）。
- 川島真「第一次大戦後の中国と日仏関係——ワシントン体制と仏領インドシナをめぐる」（『日仏文化』第83号、2014年）。
- 河村一夫「国際連盟と石井菊次郎（I）——中国問題審議に対する配慮について」（『政治経済史学』

- 162号、1979年)。
- 北岡伸一『後藤新平——外交とヴィジョン』(中公新書、1988年)。
- 北岡伸一「ワシントン体制の崩壊とマクマリ・メモランダム」(同『門戸開放政策と日本』東京大学出版会、2015年〔初出、1984年〕)。
- 北岡伸一『門戸開放政策と日本』(東京大学出版会、2015年)。
- 北村厚「「パン・ヨーロッパ」論におけるアフリカ・アジア」(『現代史研究』第57号、2011年)。
- 北村厚『ヴァイマル共和国のヨーロッパ統合構想——中欧から拡大する道』(ミネルヴァ書房、2014年)。
- 木畑洋一『20世紀の歴史』(岩波新書、2014年)。
- クーデンホーフ(永富守之助訳)『汎ヨーロッパ』(国際連盟協会、1926年)。[Coudenhove-Kalergi, Richard N., *Pan-Europa*, Pan-Europa-Verl, 1923].
- 草野大希『アメリカの介入政策と米州秩序——複雑システムとしての国際政治』(東信堂、2011年)。
- 草野大希「日米の台頭と地域的国際秩序の連鎖」(『国際政治』第183号、2016年)。
- 久保亨『戦間期中国「自立への模索」——関税通貨政策と経済発展』(東京大学出版会、1999年)。
- J・B・クラウリー(河合秀和訳)「日英協調への模索」(細谷千博・斎藤真編『ワシントン体制と日米関係』東京大学出版会、1978年)。
- 小池聖一「「国家」としての中国、「場」としての中国——満州事変前、外交官の対中国認識」(小池聖一『満州事変と対中国政策』吉川弘文館、2003年)。
- 小池聖一『満州事変と対中国政策』(吉川弘文館、2003年)。
- 高坂正堯「国際連盟と集団的安全保障」(『国際政治』第10号、1959年)。
- 高文勝「済南事件をめぐる国民政府の対応について」(『日本福祉大学研究紀要——現代と文化』第112号、2005年)。
- 小島健「戦間期における欧州統合構想」(『経済学季報』第56号第1・2号、2006年)。
- 後藤春美『アヘンとイギリス帝国——国際規制の高まり 1906～1943年』(山川出版社、2005年)。
- 後藤春美『上海をめぐる日英関係 1925—1932年——日英同盟後の協調と対抗』(東京大学出版会、2006年)。
- 後藤春美「国際連盟の対中技術協力とイギリス、1928—1935年——ライヒマン衛生部長の活動と資金問題を中心に」(服部龍二、土田哲夫、後藤春美編『戦間期の東アジア国際政治』中央大学出版部、2007年)。
- 後藤春美『国際主義との格闘——日本、国際連盟、イギリス帝国』(中公叢書、2016年)。
- 小林啓治『国際秩序の形成と近代日本』(吉川弘文館、2002年)。
- 小林道彦『政党内閣の崩壊と満洲事変』(ミネルヴァ書房、2010年)。
- 斎川貴嗣「国際連盟知的協力国際委員会と中国——戦間期国際文化交流における認識の転回」(『早稲田政治公法研究』第85号、2007年)。
- 斎川貴嗣「国際文化交流における国家と知識人——国際連盟知的協力国際委員会の創設と新渡戸稲造」(平野健一郎ほか編『国際文化交流史研究』東京大学出版会、2013年)。

齊藤孝『戦間期国際政治史』（岩波現代文庫、2015年）〔岩波全書、1978年〕。

酒井一臣『近代日本外交とアジア太平洋秩序』（昭和堂、2009年）。

酒井哲哉「「英米協調」と「日中提携」」（『年報近代日本研究』第11巻、1989年）。

酒井哲哉『大正デモクラシー体制の崩壊』（東京大学出版会、1992年）。

酒井哲哉「「東亜共同体論」から「近代化論」へ——蠟山政道における地域・開発・ナショナリズム論の位相」（同『近代日本の国際秩序論』岩波書店、2007年〔初出、1999年〕）。

酒井哲哉「古典外交論者と戦間期国際秩序——信夫淳平の場合」（同『近代日本の国際秩序論』岩波書店、2007年〔初出、2004年〕）。

酒井哲哉『近代日本の国際秩序論』（岩波書店、2007年）。

酒井哲哉「近代日本外交史」（李鐘元ほか編『日本の国際政治学4 歴史の中の国際政治』有斐閣、2009年）。

阪谷芳郎「世界大政治家に訴ふ」（『国際知識』1934年5月号）。

佐藤誠三郎「協調と自立との間」（同『「死の跳躍」を越えて——西洋の衝撃と日本』千倉書房、2009年〔初出、1970年〕）。

佐藤尚武『回顧八十年』（時事新報社、1963年）。

佐藤尚武監修、鹿島平和研究所編『日本外交史14巻 国際連盟における日本』（鹿島研究所出版会、1972年）。

澤田寿夫編『澤田節三——一外交官の生涯』（有斐閣、1985年）。

幣原喜重郎『外交五十年』（中公文庫、2007年）〔読売新聞社、1951年〕。

幣原平和財団編『幣原喜重郎』（幣原平和財団、1955年）。

篠原初枝『戦争の法から平和の法へ——戦間期のアメリカ国際法学者』（東京大学出版会、2003年）。

篠原初枝『戦間期国際秩序における国際連盟——ヨーロッパが育てたアメリカの構想』（田中孝彦・青木人志編『〈戦争〉のあとに——ヨーロッパの和解と寛容』勁草書房、2008年）。

篠原初枝『国際連盟——世界平和への夢と挫折』（中公新書、2010年）。

篠原初枝「国際連盟外交——ヨーロッパ国際政治と日本」（井上寿一編『日本の外交』第1巻、岩波書店、2013年）。

信夫淳平「不戦条約の本質（特に連盟規約との関係に就て）」（『外交時報』第572号、1928年10月）。

柴田紳一『昭和期の皇室と政治外交』（原書房、1995年）。

杉村陽太郎『国際連盟脱退と今後のこと』（日本経済連盟会・日本工業倶楽部、1933年）。

杉村陽太郎『国際外交録』（中央公論社、1933年）。

クリストファー・ソーン（市川洋一訳）『満州事変とは何だったのか——国際連盟と外交政策の形成』上下巻（草思社、1994年）。[Thorne, Christopher, *The Limits of Foreign Policy: The West, the League and the Far Eastern Crisis of 1931-1933*, Macmillan, 1972].

高杉洋平「国際軍縮会議と日本陸軍——パリ平和会議からワシントン会議へ」（『国際政治』第154号、2008年）。

高原秀介『ウィルソン外交と日本——理想と現実の間、1913-1921』（創文社、2001年）。

武田知己『重光葵と戦後政治』（吉川弘文館、2002年）。

武田知己「佐藤尚武」(佐道明広・小宮一夫・服部龍二編『人物で読む現代日本外交史——近衛文麿から小泉純一郎まで』吉川弘文館、2008年)。

武田知己「近代日本の「新秩序」構想の<古さ>と<新しさ>——国際法・外交専門誌と外務省調書を題材として」(武田知己、萩原稔編『大正・昭和期の日本政治と国際秩序——転換期における「未発の可能性」をめぐる』思文閣、2014年)。

種稲秀司「第二次幣原外交初期の日中交渉——1929年の中ソ紛争の影響を中心として」(『国際政治』152号、2008年)。

ジョン・ダワー(大窪愿二訳)『吉田茂とその時代』上下巻(中公文庫、2014年)[ティービーエス・ブリタニカ、1981年]。

筒井若水「ドイツ加盟外交にみる国際連盟——国際連合における日本の地位との関連において」(『教養学科紀要』、1978年11月号)。

A・J・P・テイラー『第二次世界大戦の起源』(講談社学術文庫、2011年)。*[A. J. P. Taylor, The Origins of the Second World War, 2nd ed., Penguin Books, 1964 (1st ed., 1961)]*。

ピーター・ドウス(浜口裕子訳)「日本／西欧列強／中国の反植民地化」(『岩波講座近代日本と植民地2 帝国統治の構造』岩波書店、1992年)。

等松春夫「満洲国際管理論の系譜——リットン報告書の背後にあるもの」(『国際法外交雑誌』第99巻6号、2001年)。

等松春夫「1932年未発の「満州PKF」?——リットン報告書にみられる特別憲兵隊構想」(『軍事史学』第41巻第1・2合併号、2001年)。

等松春夫「帝国からガヴァナンスへ——国際連盟時代の領域国際管理の試み」(緒方貞子、半澤朝彦編『グローバル・ガヴァナンスの歴史の変容——国連と国際政治史』ミネルヴァ書房、2007年)。

等松春夫『日本帝国と委任統治——南洋群島をめぐる国際政治、1914-1947』(名古屋大学出版会、2011年)。

戸澤英典「戦間期ヨーロッパの「和解」と「寛容」——パン・ヨーロッパ運動とその影響を中心に」(田中孝彦ほか編『「戦争」のあとに——ヨーロッパの和解と寛容』(勁草書房、2008年)。

富塚一彦「一九三三、四年における重光外務次官の対中国外交路線——「天羽声明」の考察を中心に」(『外交史料館報』第13号、1999年)。

富塚一彦『「連盟脱退ノ根本義」と日本外務省における『東亜』概念の生成——国際会議における『東亜』問題討議への拒絶方針を中心に』(『國學院大學日本文化研究所紀要』第92輯、2003年)。

中沢志保『ヘンリー・スティムソンと「アメリカの世紀」』(国書刊行会、2014年)。

中谷直司『強いアメリカと弱いアメリカの狭間で——第一次世界大戦後の東アジア秩序をめぐる日米英関係』(千倉書房、2016年)。

中村道「国際連合と地域的機構——冷戦後の新たな関係」(同『国際機構法の研究』東信堂、2009年〔初出、2004年〕)。

中村道「国際連合と地域的機構の関係——60年の変遷と課題」(同『国際機構法の研究』東信堂、2009年)。

西崎文子「モンロー・ドクトリンの普遍化——その試みと挫折」(『アメリカ研究』第20号、1986年)。

西平等「連盟期の国際秩序構想におけるモーゲンソー政治的紛争論の意義（1）」（『関西大学 法学論集』第 65 巻第 6 号、2016 年）。

西田敏宏「ワシントン体制と国際連盟・集団安全保障」（伊藤之雄、川田稔編著『20 世紀日本と東アジアの形成 1867－2006』ミネルヴァ書房、2007 年）。

西田敏宏「戦間期日本の国際協調外交と国際連盟」（『国際政治』第 155 号、2009 年）。

日本国際連合学会編『安全保障をめぐる地域と国連（『国連研究』第 12 号）』、2011 年。

則武輝幸「一般的国際組織——OAS, OAU」（横田洋三編『国際組織法』有斐閣、1999 年）。

濱口學「国際連盟と上部シレジア定境紛争」（『國學院大學紀要』第 31 巻、1993 年）。

濱口學「ロカルノ方式の萌芽——ワシントン会議からカンヌ最高会議へ」（『国際法外交雑誌』第 93 巻 6 号、1995 年）。

濱口學「ジャン・モネの中国建設銀公司構想」（『外交史料館報』第 15 号、2001 年）。

波多野澄雄『太平洋戦争とアジア外交』（東京大学出版会、1996 年）。

服部龍二『東アジア国際環境の変動と日本外交 1918－1931』（有斐閣、2001 年）。

服部龍二『幣原喜重郎と二十世紀の日本——外交と民主主義』（有斐閣、2006 年）。

馬場明「臨城事件と日本の対応」（同『日中関係と外政機構の研究』原書房、1983 年）。

半澤朝彦「アジア・太平洋戦争と「普遍的」国際機構」（倉沢愛子ほか編『岩波講座 アジア・太平洋戦争 8 巻——20 世紀の中のアジア・太平洋戦争』岩波書店、2006 年）。

坂野潤治「「連盟式外交」と「アメリカ式外交」の狭間で——戦前日本の外交と内政」（東京大学社会科学研究所編『20 世紀システム 1 構想と形成』東京大学出版会、1998 年）。

樋口秀実『日本海軍から見た日中関係史研究』（芙蓉書房出版、2002 年）。

樋口真魚「モンロー会議（1936 年）と日本外務省——国際連盟脱退後における二つの連盟観」（『史学雑誌』第 123 編 6 号、2014 年）。

樋口真魚「国際連盟脱退後の日本と通商均等待遇問題——日英二国間交渉と連盟外交の交錯」（『国際政治』第 181 号、2015 年）。

樋口真魚「近代日本と「集団安全保障外交」の模索」、東京大学大学院人文社会系研究科提出博士論文、2016 年）

樋口真魚「「連盟脱退国」としての二つの路線」（同「近代日本と「集団安全保障外交」の模索」第 2 章、東京大学大学院人文社会系研究科提出博士論文、2016 年）。

平野健一郎「概念の文化触変——「“国際”社会」という日本語の登場と変遷」（平野健一郎ほか編『国際文化関係史研究』東京大学出版会、2013 年）。

福田宏「ポスト・ハプスブルク期における国民国家と広域論」（池田嘉郎編『第一次世界大戦と帝国の遺産』山川出版社、2014 年）。

藤岡健太郎「戦間期日本の「国際主義」と「地域主義」」（『日本歴史』第 647 号、2002 年）。

藤岡健太郎「「容喙拒否」の論理——国際連盟・ワシントン会議と「門戸開放主義」「モンロー主義」」（『史学雑誌』第 116 編第 10 号、2007 年）。

アントニー・ベスト（小館尚文訳）「戦間期東アジアにおける国際連盟——国際協調主義・地域主義・ナショナリズム」（緒方貞子、半澤朝彦編『グローバル・ガヴァナンスの歴史の変容——国連と国際政治史』ミネルヴァ書房、2007 年）。

細谷千博「ワシントン体制と日・米・英」（細谷千博・斎藤真編『ワシントン体制と日米関係』東京大学出版会、1978年）。

細谷雄一『外交による平和——アンソニー・イーデンと二十世紀の国際政治』（有斐閣、2005年）。

細谷雄一「国連構想とイギリス外交——普遍主義と地域主義の交錯、1941～1943年」（同編『グローバル・ガバナンスと日本』中央公論新社、2013年）。

牧野雅彦『ロカルノ条約——シュトレゼマンとヨーロッパの再建』（中公叢書、2012年）。

マーク・マゾワー（池田年穂訳）『国連と帝国——世界秩序をめぐる攻防の20世紀』（慶應義塾大学出版会、2015年）。[Mazower, Mark, *No Enchanted Palace: The End of Empire and the Ideological Origins of the United Nations*, Princeton University Press, 2009].

マーク・マゾワー（依田卓巳訳）『国際協調の先駆者たち——理想と現実の200年』（NTT出版、2015年）。[Mazower, Mark, *Governing the World: The History of an Idea*, Penguin, 2012].

マーク・マゾワー（中田瑞穂、網谷龍介訳）『暗黒の大陸——ヨーロッパの20世紀』（未来社、2015年）。[Mazower, Mark, *Dark Continent: Europe's Twentieth Century*, Knopf, 1999].

三谷太一郎「国際環境の変動と日本の知識人」（同『学問は現実にはいかに関わるか』東大出版会、2013年〔初出、1972年、増補初出、1974年〕）。

三谷太一郎「日本における地域主義の概念」（『近代日本における戦争と政治』岩波書店、1997年）。

三谷太一郎『ウォールストリートと極東——政治における国際金融資本』（東京大学出版会、2009年）。

三牧聖子『戦争違法化運動の時代——「危機の20年」のアメリカ国際関係思想』（名古屋大学出版会、2014年）。

ハンス・モーゲンソー（原彬久監訳）『国際政治——権力と平和』（岩波文庫、2013年）。[Morgenthau, Hans, *Politics among Nations: The Struggle for Power and Peace*, 5th edition revised, Alfred A. Knopf, 1978 (1st ed., 1948)].

最上敏樹『国際機構論[第2版]』（東京大学出版会、2006年）。

光田剛『中国国民政府期の華北政治』（御茶の水書房、2007年）。

安田佳代「戦間期東アジアにおける国際衛生事業——テクノラートによる機能的国際協調の試み」（『国際関係論研究』27号、2008年）。

安田佳代「国際連盟からの機能的国際協調の継承と発展」（『国際政治』第160号、2010年）。

安田佳代『国際政治のなかの国際保健事業——国際連盟保健機関から世界保健機関、ユニセフへ』（ミネルヴァ書房、2014年）。

山澄亨「チャコ戦争をめぐるアメリカと国際連盟」（『二十世紀研究』第4号、2003年）。

山澄亨「国際連盟によるチャコ戦争調停交渉（1）——調査団の派遣」（『社会とマネジメント』第1巻第2号、2004年）。

山澄亨「1930年代のアメリカの西半球政策における多国間外交と二国間外交」（『社会とマネジメント』第7巻第2号、2010年）。

山田哲也『国連が創る秩序——領域管理と国際法』（東京大学出版会、2010年）。

芳井研一「中東鉄道問題とパリ不戦条約」（『環日本海研究年報』第3号、1996年）。

李修二「国際連盟によるオーストリアおよびハンガリーの金融復興計画、1922—1926年」（『四日市大学論集』第8号第1巻、1995年）。

鹿錫俊『中国国民政府の対日政策 1931－1933 年』（東京大学出版会、2001 年）。
デーヴィッド・ロング、ピーター・ウィルソン編（宮本盛太郎、関静雄監訳）『危機の二十年の思想家たち——戦間期理想主義の再評価』（ミネルヴァ書房、2002 年）。[Long, David and Wilson, Peter, eds., *Thinkers of the Twenty Years' Crisis: Inter-war Idealism Reassessed*, Clarendon Press, 1997].
和田華子「第一次世界大戦後の国際秩序の再編と日本外交——1920 年代における「国際連盟中心主義」の形成とその展開」（お茶の水女子大学提出博士論文、2013 年）。

Akindele, R. A., *The Organization and Promotion of World Peace: A Study of Universal- Regional Relationships*, University of Toronto Press, 1976.

Armstrong, David and Lloyd, Lorna and Redmond, John, *International Organization in World Politics*. 3rd Edition, Palgrave Macmillan, 2004.

Barros, James, *The Corfu Incident of 1923: Mussolini and the League of Nations*, Princeton University Press, 1965.

Barros, James, *Betrayal from Within: Joseph Avenol, Secretary-General of the League of Nations, 1933–1940*, Yale University Press, 1969.

Barros, James, *Office without Power: Secretary-General Sir Eric Drummond, 1919-1933*, Oxford University Press, 1979.

Beyersdorf, Frank, ““Credit or Chaos”?: The Austrian Stabilisation Programme of 1923 and the League of Nations,” in Laqua, Daniel, ed., *Internationalism Reconfigured: Transnational Ideas and Movements between the World Wars*, I. B. Tauris, 2011.

Bosco, Andrea, “The British Foreign Office and the Briand Plan,” in Fleury, A. and Jílek, Lubor, eds., *Le plan Briand d'union fédérale européenne: perspectives nationales et transnationales, avec documents*, Peter Lang, 1998.

Bourneuf, Pierre-Etienne, ““We Have Been Making History”: The League of Nations and the Leticia Dispute (1932–1934),” *International History Review*, published online, 2016.

<http://dx.doi.org/10.1080/07075332.2016.1245673>

Boyce, Robert, *The Great Interwar Crisis and the Collapse of Globalization*, Palgrave Macmillan, 2009.

Bull, Hedley, “The Emergence of a Universal International Society,” in Bull, Hedley and Watson, Adam, eds, *The Expansion of International Society*, Oxford University Press, 1985.

Burkman, Thomas W., *Japan and the League of Nations: Empire and World Order, 1914-1938*, University of Hawai'i Press, 2008.

Carlton, David, “Great Britain and the League Council Crisis of 1926,” *Historical Journal*, Vol. 11, No. 2, 1968.

Chaudron, Gerald, *New Zealand in the League of Nations: The Beginnings of an Independent Foreign Policy, 1919-1939*, McFarland & Co., 2012.

Clavin, Patricia, *Securing the World Economy: The Reinvention of the League of Nations, 1920-1946*,

- Oxford University Press, 2013.
- Cohen, Warren I., *Empire without Tears: America's Foreign Relations, 1921-1933*, Alfred a Knopf, 1987.
- Cohrs, Patrick, O., *The Unfinished Peace after World War I: America, Britain and the Stabilisation of Europe, 1919-1932*, Cambridge University Press, 2006.
- The Committee on Latin American Policy, *Recommendations as to the Pan-American Conference at Montevideo*, Foreign Policy Committee Reports No. 1, 1933. (高木八尺文庫、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター所蔵)
- Decorzant, Yann, "Internationalism in the Economic and Financial Organisation of the League of Nations," in Laqua, Daniel, ed., *Internationalism Reconfigured: Transnational Ideas and Movements between the World Wars*, I. B. Tauris, 2011.
- Divine, Robert A., *The Illusion of Neutrality*, University of Chicago Press, 1962.
- Dykman, Klaas, "How International was the Secretariat of the League of Nations," *International History Review*, Vol. 37, Issue 4, 2015.
- Edwards, P. G., "Britain, Mussolini and the "Locarno-Geneva System"," *European Studies Review*, Vol. 10, No. 1, 1980.
- Egerton, George W., *Great Britain and the Creation of the League of Nations: Strategy, Politics, and International Organization, 1914-1919*, University of North Carolina Press, 1978.
- Elliott, A. Randle, "Regionalism in the League of Nations: To the Outbreak of World War II," Ph.D. Thesis, Harvard University, 1949.
- Ferrell, Robert H., *American Diplomacy in the Great Depression: Hoover-Stimson Foreign Policy, 1929-1933*, Yale University Press, 1957.
- Gorman, Daniel, *The Emergence of International Society in the 1920s*, Cambridge University Press, 2012.
- Grayson, Richrad S., *Austen Chamberlain and the Commitment to Europe: British Foreign Policy 1924-29*, Frank Cass, 1997.
- Hecht, Robert A., "Great Britain and the Stimson Note of January 7, 1932," *Pacific Historical Review*, Vol. 38, No. 2, 1969.
- Hell, Stefan, *Siam and the League of Nations: Modernisation, Sovereignty and Multilateral Diplomacy 1920-1940*, River Press, 2010.
- Henig, Ruth, *The League of Nations: Makers of the Modern World*, Haus Publishing, 2010.
- Hilton, Stanley E., "Brazil and the Post-Versailles World: Elite Images and Foreign Policy Strategy, 1919-1929," *Journal of Latin American Studies*, Vol. 12, No. 2, 1980.
- Hoo, Mona Yung-Ning, *Painting the Shadows: The Extraordinary Life of Victor Hoo*, Eldridge & Co, 1998.
- Inman, Samuel Guy, *Inter-American Conferences 1826-1954 History and Problems*, University Press of Washington, D. C. and the Community College Press, 1965.
- Johnson, Gaynor, *Lord Robert Cecil: Politician and Internationalist*, Ashgate, 2013.

- Josephson, Harold, "Outlawing War: Internationalism and the Pact of Paris," *Diplomatic History*, Vol. 3, No. 4, 1979.
- Keylor, William R., "The Rise and Demise of the Franco-American Guarantee Pact, 1919-1921," *Proceedings of the Annual Meeting of the Western Society for French History*, Vol. 15, 1988.
- Kiddle, Amelia M., "Separating the Political from the Technical: The 1938 League of Nations Mission to Latin America," in Mcpherson, Alan and Wehrli, Yannick, eds., *Beyond Geopolitics: New Histories of Latin America at the League of Nations*, University of New Mexico Press, 2015.
- Kit-Ching, Chan Lau, "The Lincheng 臨城 Incident: A Case Study of British Policy in China between the Washington Conference (1921-22) and the First Nationalist Revolution (1925-28)," *Journal of Oriental Studies* (『東方文化』、香港), X-2, 1972.
- Kimmich, Christoph M., *Germany and the League of Nations*, University of Chicago Press, 1976.
- Laqua, Daniel, ed., *Internationalism Reconfigured: Transnational Ideas and Movements between the World Wars*, I. B. Tauris, 2011.
- Legg, Stephen, "An International Anomaly?: Sovereignty, the League of Nations and India's Princely Geographies," *Journal of Historical Geography*, Vol. 43, 2014.
- Lentin, Antony, "'Une aberration inexplicable'? Clemenceau and the Abortive Anglo-French Guarantee Treaty of 1919," *Diplomacy & Statecraft*, Vol. 8, No. 2, 1997.
- Leuchars, Chris, "Brazil and the League Council Crisis of 1926," *Diplomacy & Statecraft*, Vol. 12, No. 4, 2001.
- Lippmann, Walter, "Public Opinion and the Renunciation of War," *Proceedings of the Academy of Political Science*, Vol. 13, No. 2, 1929.
- Lloyd, Lorna, "'Another National Milestone': Canada's 1927 Election to the Council of the League of Nations," *Diplomacy & Statecraft*, Vol. 21, No. 4, 2010.
- Lloyd, Lorna, "'On the Side of Justice and Peace': Canada on the League of Nations Council 1927-1930," *Diplomacy & Statecraft*, Vol. 24, No. 2, 2013.
- Louis, W. Roger, "The Era of the Mandates System and the Non-European World," in Bull, Hedley and Watson, Adam, eds, *The Expansion of International Society*, Oxford University Press, 1985.
- Ma, Tehyun, "'The Common Aim of the Allied Powers': Social Policy and International Legitimacy in Wartime China, 1940-47," *Journal of Global History*, Vol. 9, 2014.
- Macmillan, Margaret, *Paris 1919: Six Months that Changed the World*, Random House, 2003 [Paperback Edition, First Published in 2001].
- Martin, Percy Alvin, "Latin American and the League of Nations," *The American Political Science Review*, Vol. 20, No. 1, 1926.
- Mcpherson, Alan, "Anti-Imperialism and the Failure of the League of Nations," in Alan Mcpherson and Yannick Wehrli, in Mcpherson, Alan and Wehrli, Yannick, eds., *Beyond Geopolitics: New Histories of Latin America at the League of Nations*, University of New Mexico Press, 2015.
- Mecham, J. Lloyd, *The United States and Inter-American Security, 1889-1960*, University of Texas Press, 1961.

- Miller, David Hunter, "The Settlement of Political Disputes through Conference, Conciliation and Diplomacy," *Proceedings of the Academy of Political Science*, Vol. 13, No. 2, 1929.
- Miller, David Hunter, *The Peace Pact of Paris*, Ulan Press, 2012 [G. P. Putnam's Sons, 1928].
- Mitter, Rana, "Imperialism, Transnationalism, and the Reconstruction of Post-war China: UNRRA in China, 1944-7," *Past & Present*, Vol. 218, Suppl. 8, 2013.
- Neilson, Keith, *Britain, Soviet Russia and the Collapse of the Versailles Order, 1919–1939*, Cambridge University Press, 2009 [Paperback Edition, First Published in 2005].
- Neilson, Keith, and Otte, T. G., *The Permanent Under-Secretary for Foreign Affairs, 1854–1946*, Routledge, 2012 [Paperback Edition, First Published in 2008].
- Nish, Ian, *Alliance in Decline: A Study in Anglo-Japanese Relations 1908-1923*, Athlone Press, 1972.
- NISHIDA Toshihiro, "US-Japanese Relations and the Increasing Influence of the League of Nations in East Asia, 1927-1931" (『藝』2号、2005年) .
- Northedge, F. S., *The League of Nations: Its Life and Times, 1920-1946*, Holmes & Meier, 1986.
- Osterhammel, Jürgen, "'Technical Co-operation' between the League of Nations and China," *Modern Asian Studies*, Vol. 13, No. 4, 1979.
- Ostrower, Gary B., *Collective Insecurity: The United States and the League of Nations during the Early Thirties*, Associated University Presses, 1979.
- O'Sullivan, Christopher D., *Sumner Welles, Postwar Planning, and the Quest for a New World Order, 1937-1943*, Columbia University Press, 2008.
- Pedersen, Susan, *The Guardians: The League of Nations and the Crisis of Empire*, Oxford University Press, 2015.
- Pegg, Carl H., *Evolution of European Idea, 1914-1932*, University of North California, 1983.
- Roosevelt, Franklin D., "Our Foreign Policy: A Democratic View," *Foreign Affairs*, Vol.6, No. 4.
- Pernet, Corinne A., "Shifting Position to the Global South: Latin America's Initiatives in the Early Years at the United Nations," in Auroi, Claude and Helg, Aline, eds., *Latin America 1810-2010: Dreams and Legacies*, Imperial College Press, 2012.
- Pernet, Corinne A., "Developing Nutritional Standards and Food Policy: Latin American Reformers between the ILO, the League of Nations Health Organization, and the Pan-American Sanitary Bureau," in Kott, Sandrine and Droux, Joëlle, eds., *Globalizing Social Rights: The International Labour Organization and Beyond*, Palgrave Macmillan and International Labour Office, 2013.
- Salter, Arthur, *Recovery: the Second Effort*, Revised Edition, G. Bell and Sons, 1933 [First Edition, 1932].
- Schlesinger, Stephen C., *Act of Creation: the Founding of the United Nations*, Westview Press, 2003.
- Stahn, Carsten, *The Law and Practice of International Territorial Administration: Versailles to Iraq and Beyond*. Cambridge University Press, 2008.
- Steiner, Zara, *The Lights that Failed: European International History 1919-1933*, Oxford University Press, 2007 [Paperback Edition, First Published in 2005].
- Yearwood, Peter J., *Guarantee of Peace: The League of Nations in British Policy, 1914-1925*, Oxford

University Press, 2009.

Yearwood, Peter, ““A Genuine and Energetic League of Nations Policy”: Lord Curzon and the New Diplomacy, 1918-1925,” *Diplomacy & Statecraft*, Vol. 21, No. 2, 2010.

Walters, F. P., *A History of the League of Nations*, Oxford University Press, 1960 [First Published in 1952].

Wehrli, Yannick, “Latin America in the League of Nations: Bolivar’s Dream Come True?”, in Auroi, Claude and Helg, Aline, eds., *Latin America 1810-2010: Dreams and Legacies*, Imperial College Press, 2012.

Wehrli, Yannick, “A Dangerous League of Nations: The Abyssinian War and Latin American Proposals for the Regionalization of Collective Security,” in Mcpherson, Alan and Wehrli, Yannick, eds., *Beyond Geopolitics: New Histories of Latin America at the League of Nations*, University of New Mexico Press, 2015.

Weindling, Paul, “The League of Nations Health Organization and the Rise of Latin American Participation [in English],” *História, Ciências, Saúde – Manguinhos*, Vol. 13, No. 3, 2006.
[http://www.scielo.br/pdf/hcsm/v13n3/en_01.pdf]

Widenor, William C., *Henry Cabot Lodge and the Search for an American Policy*, University of California Press, 1980.

Wilde, Ralph, *International Territorial Administration: How Trusteeship and the Civilizing Mission Never Went Away*, Oxford University Press, 2008.

Wimer, Kurt and Sarah, “The Harding Administration, the League of Nations, and the Separate Peace Treaty,” *Review of Politics*, Vol. 29, No. 1, 1967.

Wood, Bryce, *The United States and Latin American Wars 1932-1942*, Columbia University Press, 1966.

Wright, Jonathan, *Gustav Stresemann: Weimar’s Greatest Statesman*, Oxford University Press, 2007 [Paperback Edition, First Published in 2002].

Zanasi, Margherita, “Exporting Development: The League of Nations and Republican China,” *Comparative Studies in Society and History*, Vol. 49, No. 1, 2007.

Zendejas, H. Flores and Decorzant, Yan, “Going Multilateral? Financial Markets’ Access and the League of Nations Loans, 1923-8,” *Economic History Review*, Vol. 69, No. 2, 2016.

“U.N. Library Dedicates Room to U.S. Philanthropist,” September 10, 2012. [2016年12月11日閱覽]

<http://iipdigital.usembassy.gov/st/english/article/2012/09/20120910135746.html#axzz4SRtmaGhC>

川島真（廖敏淑訳）「再論華盛頓体制」（金光耀、王建朗編『北洋時期的中国外交』復旦大学出版社、2006年）。

顧維鈞（中国社会科学院近代史研究所訳）『顧維鈞回憶錄』（中華書局、2013年）[中華書局、1983

年]。

洪嵐『南京国民政府的国連外交』（中国社会科学出版社、2010年）。

金光耀『顧維鈞伝』（河北人民出版社、1999年）。

金以林『国民党高層の派系政治——蔣介石「最高領袖」地位の確立〔修訂版〕』（社会科学文献出版社、2016年）。

馬長林、黎霞、石磊等『上海公共租界城市管理研究』（中西書局、2011年）。

上海租界志編纂委員会編『上海租界志』（上海社会科学院出版社、2001年）。

申曉雲『民国政体与外交』（南京大学出版社、2013年）。

唐啓華「北洋時代の北洋外交——北洋外交与奉系軍閥处理外交事務の互動關係初探」（中華民國史專題第一屆討論会秘書处編『中華民國史專題論文集第一屆討論会』国史館、1992年）。

唐啓華「英国与北伐時代の南北和平（1926—1928）」（『興大歴史学報』第3期、1993年）。

唐啓華『北京政府与国際連盟（1919—1928）』（東大図書公司、1998年）。

唐啓華「北洋外交与『凡爾賽—華盛頓体系』」（金光耀、王建朗編『北洋時代の中国外交』復旦大学出版社、2006年）。

唐啓華『被「廢除不平等条約」遮蔽の北洋修約史（1912—1928）』（社会科学文献出版社、2010年）。

唐啓華『巴黎和会与中国外交』（社会科学文献出版社、2014年）。

汪朝光「臨城動車案及其外交交渉」（金光耀、王建朗編『北洋時代の中国外交』復旦大学出版社、2006年）。

王文隆「中東路事件期間国民政府尋求国際調解の嘗試」（周惠民編『国際秩序与中国外交の形塑』政大出版社、2014年）。

張力『国际合作在中国——国際連盟角色的考察、1919—1946』（中央研究院近代史研究所、1999年）。